

点検及び評価に係る学識経験者の意見について

福山市教育委員会が実施した「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について、教育に関し学識経験を有する者から、次のとおり意見を聴取した。

【学識経験者】

名 前	役職等
大島 衣恵	喜多流能楽師
大塚 佐知恵	福山市PTA連合会会長
田丸 敏高	福山市立大学学長

(五十音順)

【意見の要旨】

(点検及び評価全般に係る意見)

- ◇ 数値目標のうち、90パーセントのものは、あとは100パーセントを目指すのみであるため、数値目標の達成はよりハードルが高いものとなる。
全ての数値が前年よりも伸びなければならないという視点では、努力していても遅れているという印象を持ってしまう。今の数値を維持することが大変な項目と、これからも数値を伸ばしていける項目の難易度を考慮した評価の手法等を検討されたい。
- ◇ 報告書としてよくまとめられている。この点検評価が学校現場で活用されれば、より効果が上がると思う。

(学校教育に係る主な意見)

- ◇ 認定こども園には、幼稚園の就学前教育の機能のほか、就労する保護者を支援するための、保育が必要な子どもたちへの福祉機能もある。教育と福祉の機能を同時に求められることから、現場は苦労していると思われるが、就学前で確実に力をつけて学童期につながるよう実践を積み上げてもらいたい。
- ◇ 基本施策1に関する指標の項目7「教育活動に意義ややりがいを感じている教職員の割合」で、小学校の教員は7割以上の先生が意義ややりがいを感じているが、中学校では約5割となっている。全国的にも学校が抱える課題はより複雑化・困難化している傾向にあり、とりわけ中学校の教員は、生徒の指導や部活動など、より負担が大きくなっているため、教育委員会や福祉部門の連携による支援等に取り組まれたい。
- ◇ このたびの豪雨災害を受け、福山の地形や成り立ち、河川がどう整備されてきたのかなどについて、防災教育の中で学ぶことが大事である。
また、学校では避難訓練を行っているが、実際に豪雨を体験したことを踏まえた取組につなげてもらいたい。
- ◇ 災害が起きてすぐ、子どもたちから現地にボランティアで行きたいという声上がり、保護者と子どもでボランティア活動を行ったという話を聞いた。学校における体験学習や、主体的な学びの実践が、子どもたちの行動につながった成果であると思われる。
- ◇ 外国人家庭の子どもが非常に増えており、日本語があまりできない保護者が、他の保護者とコミュニケーションがとれず、同じ出身国同士の間人間関係に固定化してしまい、そのことが子どもにも影響することが懸念される。こうした家庭へのフォローは、学校やPTAだけでは難しく、新しい課題として全体的に取り組む必要があると思われる。

- ◇ チャレンジウィークは、仕事を体験するだけでなく、地域と子どもたちをつなぐという意味がある。子どもたちは仕事を通じて地域の中に入り、本当に良い体験をさせてもらっているので、このような校外学習は大切であり、子どもの成長につながるものとする。

(文化財に係る主な意見)

- ◇ 文化財に関しては、2018年度(平成30年度)から組織が変わったことで、今までできなかった取組がたくさん出来ているという印象がある。専門知識が必要な分野であり、行政の中にエキスパートのような人がいることが大事だと思うので、人材育成や人材確保が重要である。